

令和元年度 福知山市水道事業ビジョン(案)に対するパブリックコメント募集の結果

令和元年度 福知山市水道事業ビジョン(案)に対するパブリックコメントの募集を行いましたところ、御意見を頂きありがとうございました。頂いた御意見に対し、以下のように市の見解を示します。

- 1 意見募集期間：令和元年9月9日～令和元年9月30日
- 2 件数等：2件（2名）
- 3 提出方法：ファクス1件（1名）、窓口持参1件（1名）
- 4 意見の概要と福知山市の考え方

番号	頁	項目	意見の概要	福知山市の見解	修正の内容
①	P43	第4章 水道事業の現状 評価と課題 表4.2-3 包括的民間委託 業務内容	水道開閉栓時に水道使用時の環境保全指導や関連する使用届出書の提出、閉栓前の最終汲取り洗浄や浄化槽最終清掃と使用廃止届の提出の必要性など、浄化槽維持管理指導を京都府から権限委譲された福知山市として、市民へお知らせするため窓口対応との連携を充実していただきたい。	84ページに実現方策として業務の効率性向上を記載しており、包括的民間委託の検証を実施していく中で、業務の効率性の向上を図ることにより、窓口対応の充実を進めてまいります。 本御意見につきましては、本ビジョンの計画というより実務レベルでの効率化の中の課題ととらえており、上下水道施設の連携という視点で指導・誘導していけるように関係部署と連携を図りたいと考えます。	修正なし

②	P 8 2	<p>第6章 基本理念と目標 設定及び実現方 策</p> <p>表6.3-4 実現方策の実施 時期（強靱）</p>	<p>経年管路の更新と耐震化は、5年間で30km（年間6km）となっておりますが、優先順位1位の導水管、送水管、配水本管を優先すれば、平準化予算の中では漏水事故の多い耐用年数の経過した管路の更新は当面ほとんどできないのではないのでしょうか。よって有収率も改善しないと考えられますが、このバランスはどうなっているのでしょうか。</p> <p>また、上記の管路の更新について、具体的数値目標を設定した実施計画は作成されるのでしょうか。この前後のページが具体的な実施計画に当たるものなのでしょうか。</p>	<p>整備バランスの問題は、市としても課題であると認識しているところで、幹線である導水管・送水管・配水管は、ご指摘のとおり事業費も莫大となり、更新延長が伸びない傾向となります。</p> <p>しかしながら、一旦事故が発生しますと甚大なレベルの被害が発生することにより、後回しにすることはできないと考え優先度を高めているところで、</p> <p>現時点においては、導水管・送水管については更新を進めている状況で、今後も有利な補助金を活用することにより幹線配水管を整備する計画としております。</p> <p>一方、毎年漏水調査を実施し漏水箇所での修繕を行うとともに、法定耐用年数を超え、漏水の頻発するルートについても並行して更新整備を行っている状況です。</p> <p>68ページで更新需要を示しておりますが、この整備バランスについては別途水道施設更新計画の中で、具体的にバランスや整備順序を定め、構造物及び設備と管路も統合した中で取り組んでまいります。</p> <p>よって、本ビジョンは具体的な実施計画を示したのではなく、大きくビジョンとしての考え方を示しているものです。</p> <p>81ページに記載の更新優先順位は、①から②、③、④と移行すると述べているものではなく、重要度における重みを表しており、御意見のとおり誤解を招きやすいため表現を少し変えさせていただきます。</p>	<p>P 8 1 別紙赤字の とおり変更 します</p>
---	-------	---	--	---	--

強 靱	強靱で安定した水道
------------	------------------

水道施設は、市民の生活に欠かせないライフラインであり、水道水の供給が止まることによる生活への影響は甚大です。たとえ大地震やその他、自然災害の場面にあっても、必要最低限の水道水の供給が可能となるように水道施設を強化しておくことが重要です。

水道施設更新計画では、水源や浄水場及び配水池等の主要施設について、老朽度や被害想定、重要度評価により更新優先度を決めて更新していくとともに、必要に応じて施設耐震診断を実施し耐震化を進めます。水道管路においても同様に更新していくとともに、更新時には耐震管を使用して更新します。

更新をする必要がある水道管路の基本的な更新順位

- ① 導水管、送水管、配水本管などの基幹管路
- ② 災害時の拠点となる病院や指定避難所など災害時に必要となる管路(重要給水施設)
- ③ 実使用年数(管種によるが概ね 60 年)を超えた老朽管
- ④ 法定耐用年数(管種によるが概ね 40 年)を超えた経年管のうち、漏水等の事故が多い管路

上記の基本的な更新順位を踏まえながら、水道施設更新計画の中で、効率的でバランスの取れた全施設の更新整備に取り組むこととします。

また、確実に安定して水道水の供給を行うには、水道の災害対応力を強化する必要がある、近隣市町との連携や水道資機材の調達、市民との共同災害訓練などが有効であると考えます。

表 6.3-3 実現方策と具体的実施内容(強靱) (1/2)

実現方策	具体的実施内容
経年施設の更新と耐震化	法定耐用年数を超過している施設及び設備については、予防保全による維持管理を行いつつ、今後の水需要予測を考慮した施設のダウンサイジング等を検討しながら更新と耐震化を進めます。
経年管路の更新と耐震化	管路の重要度、老朽化の進みぐあいなどから優先的に改善すべき施設を明確にし、経年管の更新と耐震化を推進します。